



真宗大谷派旭川別院

旭川別院だより

新年号

2020

発行所 真宗大谷派 旭川別院

輪 番 太 田 法 生

〒070-0030 旭川市宮下2丁目

TEL.0166-22-2409

FAX.0166-22-2411

■印刷: 植平印刷株式会社

■旭川別院ホームページ

<http://potato9.hokkai.net/~betsuin/>

真宗大谷派旭川別院

検索

新年挨拶



真宗大谷派旭川別院輪番

太田 法 生

新年を迎え皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃より旭川別院には、ご門徒の皆様、崇敬寺院の皆様、ひときかたならぬご協力と、ご支援を賜っておりますこと、誠に深く感謝申し上げますとともに、何卒本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、新年を迎え私、数え年六十五歳となりました。毎年順調に老化し、病院の先生から高血圧症や高脂血症、糖尿病予備群と診断され、薬を常用しておりますし、認知機能の低下も襲っております。

授かったいのちは、ご縁の中で生かされてあることであり、当然のことと教えられておりますが、心はまだまだ若いつもりで、身がついて行かないことも多いです。

しかしながら、この歳になったからこそ、初めて気づかされること、初めて出逢えた人、感動させられたこともあり、その意味では、ただ無駄に歳を重ねているわけではありません。

日常私達の心は、自分にとって都合が良い人が好きで、都合が悪い人が嫌い。都合が良い人とはいつでも一緒に居たいけど、嫌いな人とは居たくない

というのが私の心です。その心はすべて私がつくりあげた自分中心の自我愛の心です。

人間は一人では生きてゆけないにもかかわらず、都合の良いときには、他人より優しい心を持ったように錯覚し、共にという大きな風呂敷を広げ、都合が悪くなると、痛みもなく、ナイフをもって切り刻んでいきます。そのような日頃の心では、本当に誰とも出逢うことも無く、人を軽んじては、薄く浅い関係でしかないのかもしれない。

しかも、自分自身さえも価値があるかないか、何かが出来るうちはいいが、出来なくなるとダメな人間だと思ひ込み、自分のいのちさえもモノサシをもって計ってしまうのです。

「南無阿彌陀仏」の教えに聞くということは、そのような自分自身を問い、常に自分が可愛くて、自分中心の見方しかできない閉ざされた自分であり、自己共に尊重・尊敬することもできない自分であったと気づいていくことである。

昨年あるとき、鹿児島別院で列座勤務している長男と家内が電話での会話で「うちのお父さんは、だんだん頑固になって困ったものだ」と会話が聞こえて

てきました。その時、それはお前の方だと言いたかった自分に、グツとこらえて聞いておりました。

なるほど高齢になればなるほど、私達は益々頑固になっていくことが、老化の一番厄介なところなのかもしれない。

相田みつをさんの書かれた言葉に「瀬戸物と瀬戸物がぶつかりつこすると、すぐ壊れちゃう。どっちかがやわらかければ大丈夫。やわらかい心を持ちましょう。そういう私は、いつも瀬戸物」という書があります。

自分が正しいと言って、我と我をぶつけば、いつも喧嘩になってしまうのが私達であります。

最近高齢者ドライバー特有の事故がニュースで取り上げられています。高齢になればなるほど、運転にはまだまだ自信があると言ひ、実に八〇歳以上の七二パーセントのドライバーが自信があると答えられるそうです。

自分は正しい、間違いないと、長年培ってきた経験に、瀬戸物のように頑固さをもつてはいないでしょうか。

私達が、教えを聞くということは、なかなか簡単なことではなく、聞く耳を持つことのない頑固さは、自分を正当化し、つい他を責めてしまひます。

教えを聴聞するとは、自分の好き勝手に聞くのではなく、自分自身の問題として、生まれてきたことの意義を問い、痛み悲しみを聞き続けていくことでもあります。

どうか本年も仏法聴聞の道場として、別院がその存在意義を果たしてまいるたいと存じます。皆様には、どうぞ別院に足を運んで頂いて、ご参詣、ご聴聞賜りますようお願い申し上げます。

謹賀新年

代表役員

太田 法生

責任役員

〇片岡 正己

新谷龍一郎

佐古 光臣

荒井 保明

常議員

〇両瀬 渉

諏訪 宣雄

飛谷 和恵

脇坂 慎一

生駒 雅彦

〇加藤 亨

塚本 信樹

木下 雅之

熊崎 智浩

田中 祥子

院議員

〇近藤 義信

〇高原 彰

〇黒田 博道

〇宗隆 教信

北川 要

小澤 聡

福本 清

佐藤 英行

川合トミエ

向井 敏純

〇水上 尚澄

〇柳澤 祐証

〇渡辺 仁海

〇吉田 幸麿

新田 守

滝野 弘子

関口 光雄

尾田 泰一

荒木 靖人

監事

梶 勝洋

小城 公明

本年もどうぞ宜しく

お願い申し上げます。

(〇印 崇敬寺院住職)

法座・行事案内

1月

元旦 午前零時 修正会

16日 午後1時 同朋の会

17日 午前11時 群萌の会

18日 午前10時 婦人会(かるた大会)

25日 正午12時 門徒新年会

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

2月

1日 午後7時 公開学習会

7日 午後1時 群萌の会

8日 午後1時 マヤの会

13日 午後1時 初心の集い

16日 午後1時 同朋の会

18日 午後1時 婦人会

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

27・28日 午後1時 定例法座

旭川別院 報恩講 嚴修

令和元年度



皆様のご尽力により、
嚴修させて頂きました。
御礼申し上げます。

北海道教区門徒会通信



真宗大谷派旭川別院 責任役員
北海道教区門徒会 副会長

佐古光臣

令和初の新年を迎え、明けましておめでとうございます。

令和元年は、慶【認定】こども園（大谷さくら幼稚園）が発足と憂いとが、こもごとと在りましたが、太田法生輪番のもと、報恩講が「四昼夜勤行」で務まりましたことは、旭川別院ご門徒のみならず、百三十か寺の崇敬ご寺院並びに、そのご門徒の佛法相続護寺の思いが結集されたものと思います。

さて、北海道教区では北海道開拓・開教に尽くされた、現如上人の百回忌法要が二年後に計画され、同時に大谷派宗門では、宗祖親鸞聖人生誕八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要が三年後に準備されています。この事については種々意見もあり、聖人の七百五十回忌が終って間もないし、と言われる人もいますが、個々の意見は否定するものではなく、当然尊重せねばなりません。宗門では親鸞聖人の教えを、法義相続するために計画準備されたものです。この三年間には、真宗本廟お待ち受け大会や教区お待ち受け大会が計画され、旭川別院にも慶讃法要参拝要請があるかも知れません。

近年寺離れが進み、別院の御座にも参拝者の減少が目立ちます、このことは私たち門徒同志でも語り合いながら、次の世代へと法義を伝えていかねばなりません。

年頭に当たり重苦しい話になりましたが、皆様には今年も良い年でありますようご祈念申し上げます。

合掌

初心のつどい ご案内

身近な仏事等と
輪番連続講話 一年間・八回

本年度の四月より輪番のお話を中心に開講します。

日時 毎月十三日

四月・五月・七月・九月・
十月・十二月・二月・三月

午後一時～三時

内容 輪番のお話・お勤め・身近な
仏事等

* 会員・会費制ではありませんので
どなたでも参加できます。

春季彼岸会

令和二年 三月十九日(土)～二十一日(土)

亡き人からいただいた尊いご縁
に出会う大切な行事。

旭川別院では、春と秋のお中日
(春分の日、秋分の日)に彼岸会法要
をおつとめします。

彼岸とは、覚りの世界「浄土」とい
う意味です。古来より日本では、春
秋の太陽が真東から真西に沈むす
がたを見て浄土を想うという中国
からの伝統を受け継ぎ「彼岸会(ひ
がなんえ)」という仏教行事を営んで
きました。本願寺第八代の蓮如上人
は、春秋彼岸を「昼夜の長短なくし
て、暑からず寒からず、(中略)佛法
修行のよき節」だと述べられました。
亡き人を偲ぶ事を通して、亡き
人と出遇いなおし、そして自分自身
の帰すべきところを定めよと呼び
かけておられます。
是非ともお参り下さいますよう
ご案内申し上げます。

日時 令和二年三月十九日(土)～
二十一日(土) 午後一時～
講師 松本 良平師(滋賀県)

念仏との出会い③



広縁寺前住職 伊藤 篤

ある朝、テレビのニュースをボーッと見ていたら「オホーツク海の流水が消滅する」というアナウンサーの声に目が覚めた。

「地球温暖化によって、このまま冬の平均気温が三・一度上昇すると流水が消えてなくなる。そうすると流水だけではなく、流水とともに北からやって来る植物プランクトンがなくなり、植物プランクトンを食べる魚がいなくなる。食物連鎖を含む生態系が大きく変化する。」という内容であった。オホーツク海の沿岸にとって冬の海を閉ざす流水はかつては厄介者であった。それが近年の観光ブームによって、冬期間の貴重な観光資源として脚光を浴びてきた。さらには流水によって漁業の資源がもたらされて海明け後の漁業の活性化が期待されてきた。

はじめは地球温暖化の影響が流水の消滅という身近な問題を具体的に提起され

て驚いた私であったが、ふと、気がついたことがあった。それは前日に届けられた瀬戸内海の小島にある真宗寺院の住職をして友人からの寺報であった。その「散華だより」と題する寺報には毎回、「歎異抄に触れて」と題する宮城 顕(しずか)先生の講義録が添えられてある。その文章を引用させていただきます。

『私もがずつと追求してきた豊かな社会、幸せな世界、それを築くために、いかに周りのものを効率よく利用するために川や山を人間の都合で組み替え、切り崩してきたわけで、そのたびに、そこに生きていた他の生き物の世界を奪ってきた。ただこの頃はつきりしてきたことは、他のいのちもあるものにとつて住みにくい世界は、実は人間にとつても住みにくい世界だということだ。いままでは人間の都合で他のいのちもあるものの世界を奪い取り、住みにくい世界にしてしまうこと

に何の痛みも感じず、そうすることで社会が幸せになり豊かになるのだと。(中略)

全て周りのものを利用するという係わり方、それを仏教では分別(ぶんべつ)といっている。その分別によつて私たちが生き始めてから、どんどん、いのちの世界というものをはなれてきた。結局、人間が独り浮き上がれば人間自体も、そのいのちの生きる場を失うのであつて、そういうところに私どもの、もう身についてしまっている思い、そして、もうその思いによつてでなければ生きていけなくなっている、そういうあり方、そのことの深い問題を教えられたところに罪悪深重(ざいあくじんじゅう)という、「深重(じんじゅう)」という言葉の意味がある。』

私は流水消失のニュースを聞きながら、前日に読んだこの宮城先生の「罪悪深重」の言葉が響いてきた。自然界のありのままの現象である流水もその時々の人間の利用価値評価によつて、「消失」を嘆いてみたり、喜んでみたり、驚いてみたりする勝手な自分がいるのである。そして分別心をもつて周りの全てを利用する自分を「罪悪深重」と呼びかけていて下さることにあらためて「流水消失」のニュース以上の驚きを感じるのでありました。「念仏との出会い」とは他ならぬ私自身との出

会いであり、そこで出会った私とは思いがけずに罪悪深重の存在そのものであったということでありました。

そしてこの寺報の最期の締めくくりはさらに大きな問題提起でありました。それは前の国連の「気候変動サミット」やこの度のCOP25で演説をした十六歳のグレタトゥンベリさんの切実な声でありました。

『私たちは絶滅にさしかかっているのに、あなたが話するのは金と永遠の経済成長というおとぎ話はただ。若者たちは、あなたたちの裏切り行為に気づき始めている。あなたたちを注視している。私たちが失望させる選択をすれば、決して許さない!』

この少女の言葉を聞いた人の中には、「そんなきれいな事を言っても経済が止まったら、今の便利な生活を保つことは出来ない。詭弁だ!」という人もいます。さてこの少女の世界の気候変動に対する真剣な問題提起に対してどう応えていくのであろうか。あるいは私の生きていく間は大丈夫だからといって何もしないのか。

全てを自分のために利用してきた罪悪深重の私に大きな課題が与えられたことである。

(完)

親鸞誕生会

（千百七十三三年四月一日生まれ）

昨年から始まった「親鸞誕生会」ですが、たくさんの方に来て頂き賑やかに勤める事ができました。今年は、四月十八日・十九日で勤めます!十八日の夜に坊主BAR、十九日に各催し物を行う予定です。

皆さんと一緒に親鸞聖人の誕生を祝いながら、共に親鸞聖人の出遇われた教えを聞けたらと思います!

是非、来て下さい!待ってます! ※我こそは、出し物(楽器演奏、歌、踊り等なんでもOK)をしたい!という方は、旭川別院事務所までご連絡下さい。

仏法あれこれ

真宗門徒の生活とは

その昔、宝くじの無かった時代には、人々の夢を叶えてくれるものは、「アラジン魔法のランプ」や「打ちの小槌」であった。

私達は、(特に年末年始)神仏に手を合わせる。無病息災、商売繁盛、合格祈願等、外見は神仏を拝んでいるように見えても、私の願望成就を手伝わせる限り、それは「打ちのの小槌」の代用品でしかない。「あれもほしい」「こうなりたい」と、私達の夢はどこまでも広がっていくが、結局は「自分自身や身内の幸せのため」という範囲にしか夢を広げることが出来ない。「私さえよければ」という『自力』を追求し『利他』を忘れた私がある。

宮沢賢治は詩集「春と修羅」の中で、他人のために何もすることが出来なかった自分の妹(享年二十四歳)の一生をいとおしむ本人の最後の言葉を、次のように伝えている。

『うまれてくるたて こんどはこたにわりやのごとばかりで くるしまなあよにうまれてくる』

外に目を向ければ、諸々の事情で苦しんでいる人々が後を絶たない現実。その事をよそに、自分自身の救いのみが私の信仰であるのなら、それは「打ちのの小槌」の代用品であり、それは信仰とはよばない。

お内仏を荘厳し、真宗門徒の志『自利他円満』の願いを新たに、今(新年の初め)より、仏様の教えを、心にかけて念仏申しましう。明けましておめでとうございます。

経森 由章



別院子ども会

昨年も沢山の子供達に参加いただいた子供会でした。有難うございます。数人から始まった子供会が今ではお寺の大きな会として成り立っています。元気に遊びまわる子供達の笑顔、姿は今の旭川別院における大きな顔です。これから一人でも多くのお子様のご参加をお待ちしております。よろしくお願ひします。

子ども会年間行事予定

■4月	万華鏡作り		新1年生
■6月	いちご狩り		小学1年生以上
■夏休み	お泊まり会		小学1年生以上
■10月	子ども会報恩講		小学1年生以上
■冬休み	お泊まり会		小学1年生以上
■3月	お泊まり会		小学1年生以上



幼稚園型認定こども園 旭川別院附属 大谷さくら幼稚園

旭川別院附属大谷さくら幼稚園便り

お招き会 九月十二日

おじいちゃん、おばあちゃんを幼稚園にご招待し、一緒におままごとやカプラ（木の積み木）をして遊んだり、あやとりやこま回しなどの昔遊びを教えていただきました。『たまごはエッグ』の体操と一緒にしたり、楽しい時間を過ごしました。

老人施設訪問 九月十三日

年長きりん組は『風花』さん、年中ぱんだ組は『花ごよみ』さんを訪問しました。おじいちゃん、おばあちゃんみなさんに大歓迎していただき、子ども達は張り切って元気いっぱい、歌『大きな栗の木の下で』、『どんぐりころころ』とお遊戯『パプリカ』等を披露しました。自分たちが作ったプレゼントカードを受け取っていただく時に握手をすると、おじいちゃんおばあちゃんの気持ちが伝わり、握手をした手を離さずに、ずっと握っていた子ども達でした。

防火教育 九月三十日

幼稚園では、一か月に一回避難訓練を行っています。九月の避難訓練は、幼稚園の給食室から出火の想定でした。子ども達は皆真剣な表情で裏庭に避難する事が出来ました。この日は消防署の方に来ていただき、訓練の様子をみていただきました。『皆さん、おしゃべりをしないで上手に避難する事ができました。』という褒めの言葉をいただきました。そのあと、幼稚園に来ていた消防車を見に行きました。『消防車、カッコいい！』と大喜びの子ども達。年長きりん組は防火服を着て消防士に変身！『大きくなったなら消防士になりたい！』という気持ちが芽生えた子もいました。

食育活動『鮭の解体ショー』 十月十一日

普段食べている鮭の、調理をする前の姿をみせてもらいました。子ども達は、鮭の大きさに驚きながら触っていました。調理師さんが目の前で鮭をさばってくれ、給食で『鮭のちゃんちゃん焼き』に料理してくれました。命をいただく事に感謝の気持ちを感じ、美味しくいただきました。

幼稚園報恩講 十一月二日

旭川別院の大きな行事であります報恩講に、年長きりん組と年中ぱんだ組が参列しました。供灯・供華ではきりん組さんが緊張しながら、練習の成果を発揮していました。皆、金倉泰賢先生のお話しをしっかりと聞きくことができました。歌とお遊戯の発表では、緊張がほぐれ、いつもの元気でニコニコの子ども達でした。

おとき昼食 十一月三日

お寺でおとき昼食をいただきました。普段食べ慣れない煮豆やなますを、『美味しい！』と何度もおかわりをする姿が見られました。きれいな器に盛りつけられた、お肉・お魚を使っていないお料理をいただくという貴重な体験をさせてもらいました。ごちそうさまでした。

秋は沢山の行事があり、楽しい経験を沢山しました。冬になり雪が降り積もり、子ども達は早速先生と一緒に雪遊びを楽しんでいます。〇・一・二歳の小さい組さんは、真っ白の雪が不思議なようで、じっとながめたり、触って確かめています。北海道の冬ならではの遊びを思い切り楽しみます。



門徒新年会のご案内

令和二年一月二十五日（土）
正午十二時から初顔合わせを兼ねまして門徒新年会を大谷ホールで開催します。
会費一、五〇〇円（当日）になります。ご参加希望の方は申込み用紙にお名前、住所を記入して下さい。
一月二十日（月）職員にお渡しするか、電話二二二二四〇九 FAX二二二二四一一に連絡下さい。
皆さんのご参加を職員一同お待ちしております。

真宗本廟報恩講 奉仕団上山

十一月二十七〜二十八日、真宗本廟（東本願寺）報恩講に奉仕団として参拝致しました。
総勢二十名での参加となりました。



真宗本廟境内にて

うどんげ

「道徳いくつになるぞ、道徳、念仏もうさるべし」（御一代記聞書・訳）道徳よ、何歳になるのだ。念仏を申しなさい。

蓮如上人が弟子の道徳に元旦に語られた言葉です。

私には損か得か、勝つか負けるか、好きか嫌いだけで終わっているのではないか。お前は大丈夫か？と問われているように思えます。

目先のことだけに囚われ、他を批判し、評判を気にし、右往左往して、走りまわっている。そこには本質・原点を見失っている。姿しかないのかもしれない。

この時、蓮如上人七十九歳、道徳七十五歳だそうです。長年弟子として、共に教えを聞いてきた者に、わかったつもりにするな。些細なことに振り回されて、一番大切なことを見失うなよということでしょう。

真宗は聞法第一と言われます。お寺の事務所にも現門首の書かれた「聞思」という額がかけられています。一生涯を聞き、わが身を見つめていく。それは他者ではなく、これでよしとして、わかったつもりになっている自身を問題にされているのだと思います。

蓮如上人が、おそらく毎年のように、元旦にそう語られたのは、たえず、その事を確かめてゆきなさいということではないでしょうか。

（北田）